

香川大学教育学部

# 附属坂出学園だより

第44号

2013.3



園舎リニューアルです！



小学校の仮設園舎も楽しい思い出です

## 目次

- ・今、学園では
  - 中学校 p 2
  - 幼稚園 p 3
  - 小学校 p 4・5
  - 特別支援学校 p 6
  - 特別支援教室「すばる」 p 7
- ・PTA活動（松韻会・親和会） p 8・9
- ・坂出学園1～3月のあゆみ p 10

# 「学ぶこと」と「生きること」の統合 —語り合う中で自己の「ものがたり」をつむぐ—

学校教育が終わっても、様々なことに関心を持ち、自ら課題を見つけ、その課題解決に向けて自ら考え続けることができる「自立した学習者」の育成を目指して実践研究を続けています。自立した学習者となるためには、「豊かなかかわりの経験」が必要不可欠です。そこで、「二つ以上の経験を有機的に結びつけ、意味づけしたり価値づけしたりする行為」を「自己の『ものがたり』をつむぐ」と定義づけ、豊かにかかわり合う中で、学ぶことの意味や価値を実感していく「語り」のあり方、自己の「ものがたり」をつむいでいくためのかかわり方を研究の大きな柱として、実践を重ねています。

真の「学ぶこと」と「生きること」の統合を目指して、自己物語論的視点からの研究をさらに深めていこうと考えています。



## CAN2013 がスタートしました!

本校の総合学習「CAN」は、次の言葉の頭文字をとったものです。

**C**・・・Cluster (クラスター) 異学年合同の小集団

**A**・・・Action Learning (アクション・ラーニング) 交流学習法

**N**・・・Narrative Approach (ナラティブ・アプローチ) 振り返り法

総合的な学習の時間を使って、私たちの身の回りの世界すべてを対象に、興味ある内容を探究し、自らの可能性を拓げていく附属坂出中学校の「本物の学習」です。



1・2年生を中心に、新しい「CAN」がスタートしました。

研究を進めていく中で、教科学習やその他の学びとのつながり、自分の個性の見つめ直しなど、さまざまな気づきが生まれていきます。

成熟してきた附属坂出中学校の研究文化のさらなる発展を目指します。



ガイダンス



テーマは何にしようか?



今年はどんな研究物語が生まれるか...

研究主題

# 幼児教育の質を高める計画と実践の在り方を考える（2年次）

～主体性と協同性の視点から～


本園では、H23年度より「幼児期に育みたい主体性と協同性」に視点をあてて、「保育計画と実践の質」を高めようと研究を進めています。子どもたちの『学び』については、何かができるようになることや分かるようになることだけではなく、「ものやことへのかかわりを追究していくこと、その過程で人とかかわりも深めていくこと、そのことを通して自分を振り返りながらよりよい自分をつくっていくこととする」という営みと捉えています。

保育計画の改善ポイントと月単位の指導計画（案）は下記の通りです。

- ・ 集団の中で自己発揮できる子どもを育成するための、内容と環境援助のポイントを検討する。（主体的に取り組める環境の工夫、内面のつながりを支える援助）
- ・ 子どもの育ちを様々な角度から支えることを大切にする。（ティーム保育、健康、家庭との連携、体験の多様性と関連性）
- ・ 目の前の子どもと共に、保育を創っていく営みを大切にする計画の在り方を検討する。
- ・ 幼稚園での教育が小学校以降の生活や学習の基盤になることを考慮して、子どもの育ちや学びの捉えとその環境や援助について検討する。

（例：3歳児2月の指導計画）

<p><b>子どもの姿</b> 意欲的に自分のやりたい遊びに向かおうとする。何人かの友達とイメージを共有しながら遊びを進めていこうとする姿や大勢で簡単なルールを守りながら遊びを楽しむ姿が見られるようになってくる。弁当の準備、遊んだ後の片付けなど自分たちでできることは自分からやっけていこうとするようになってくる。</p>	
<p><b>ねらい</b> ・ 気の合う友達とじっくり遊ぶことを楽しむ。 ・ 自分のやりたいことにじっくりと取り組む。</p>	
<p><b>大切にしたいこと</b> ・ 気の合う友達と思いを伝え合ったり、認め合ったりしながら遊ぶことの楽しさを十分に味わえるように、ゆったりとした時間や場等を保障し、それぞれの思いにでないにかかわってほしい。 ・ 今まで遊んできたものやことにも、これまで以上にじっくりと取り組むことにより、少し難しいことにも挑戦したり、やり遂げたりすることのうれしさを味わわせてほしい。 ・ じっくりと遊びこむことの楽しさや、充実感から一人ひとりが大きくなっていく自分を感じていけるように寄り添ってほしい。</p>	
行事	節分
<p>主な遊び・内容など ◎ 経験させたい内容 ● 環境援助のポイント</p>	<p>＜戸外で元氣よく遊ぶ③＞ ～冬の寒さを感じながら～ ○1年で1番寒い季節を肌で感じたり、霜や氷を発見したりする。（もの・こと） ○ヒヤシンスやクロッカスなどの開花を楽しみにしたり、チューリップの芽が出たことを喜んだり、梅の花が咲いているのを見たりする。（もの・こと） ○友達と一緒に走ることそのものを楽しむ。（人、もの・こと） ○水オニなど簡単な遊びのルールを守って遊ぼうとするようになる。（人、もの・こと） ○縄や大縄に興味を持ち、縄そのものに親しんだり縄を使ったゲームをしたり跳んだりする。（もの・こと） ○年中児や年長児の遊びにも参加していくことでその楽しさを味わったり、遊び方の刺激を受けたりするようになる。（人、もの・こと） ○砂や泥に向かい、泥団子やサラ砂などへのこだわりを追究することの楽しさを感じるようになる。自分なりに満足できるものを作ろうと、取り組んでみようとする。（もの・こと、自分） ● 自然の中の変化を発見したことや感動したことと共感し、一緒に見たり触れたりする。 ● 教師も大勢の中の一人として、元氣よく走ったり遊んだりする。 ● 縄でいろいろな体験（結ぶ、輪にする、引っ張る、跳ぶなど）ができるよう、遊びを提案していく。 ● 年中児や年長児の遊びに興味や憧れもっている姿を見とり、教師も遊びに参加したり自分から挑戦しようとする気持ちを大切にしたりしてかかわっていく。 ● 子どもたちなりの泥団子づくりの工程を見守り、できた喜びに共感したり、認めたりしていく。また、作った泥団子を保管しておけるような容器を用意するなど満足感がえられるようにする。</p>
	 <p>（大きな氷発見！） （けんけんどんじゃんけん） （縄の縄跳びでつなびきだ！） （泥団子作ろう！）</p>

健康 (内容)	・ いろいろな気持ち
(資料)	・ いろいろな気持ちのビデオ
(生活)	・ 相手の表情を見て、表現できる。
家庭との連携	・ 手洗いうがい（家庭でも行） ・ ミニ運動会（出場種目のお知らせ）
ミニ運動会	
	<p>○ 友達と一緒にイメージを共有 ○ 友達と一緒にじっくりと作る ○ 友達の様子を真似たり、教えたり ○ 年中児や年長児の独楽に興味 ● 友達に自分の思いを伝えようとして、教師も一緒に遊ぼうとする。 ● 素材を考慮し、じっくりと遊ぼうとする。 ● 年中児や年長児の遊ぶ姿を感じたりする。また、いろいろな遊び</p>  <p>（年長さんと一緒に） （動作）</p>
	<p>＜年長児との関わり＞ ○ もうすぐ年長児が修了することへの気持ちを伝える。（人） ○ 年長児へのプレゼントを、心づくしで準備することを楽しもうとする。（自分） ● 入園当初からこれまで、年長児と関わり、その1つ1ついろいろな思い（ありがとう、憧れ、楽しかったなど）をもち、年長児への準備をする。 ● 自分の考えやアイデアを言葉で伝えたり話題の提示の仕方を考える。 ● 進級することを楽しみに感じたり制作をしたりする。</p>

今後も上記のポイントを大切にしながら、日々の実践・事例研究等を積み重ね、指導計画を改善していくと共に本園ならではの教育課程を再編成し、幼児教育の質の向上を図っていきます。

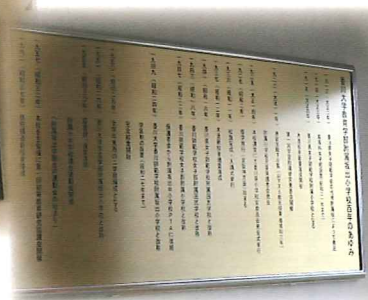
# 創立100周年記念式典・座談会

2012年11月24日（土）創立100周年記念式典が附属坂出小学校にて行われました。ご来賓、児童、保護者、卒業生の方々を合わせ約900名の出席となり、盛大な式典となりました。

式典終了後、「附属坂出小学校の子どもたちに伝えたいこと」というテーマで卒業生の山地憲治さん（東京大学名誉教授）、吉川洋一郎さん（作曲家・編曲家・映像プロデューサー）、中野美奈子さん（フリーアナウンサー）による座談会も行われました。3名の講師の先生のお話では、子どもの頃の事やどうして今の職業についてのか、またその職業のエピソードなども聞くことができ、子どもたちは、自分たちの将来の夢へと置き換えながら真剣に聞いていました。



校歌銘板・沿革史レリーフ



卒業生の方々の貴重な資料の展示

100周年目となるこの一年。スクールデコレーション、さかいで大橋まつり総踊り、ボウリング大会そして、記念式典。たくさんの方々に参加いただき、ありがとうございました。色々な方とお話しする機会、そして、たくさんのご協力をいただき、本当に「絆」・「感謝」を感じる一年となりました。子どもたちだけでなく、保護者同士のつながりもさらに強く感じました。これからも子どもたち、また保護者同士の「絆」を大切にしていきたいと思いました。本当にありがとうございました。



## 「思考力」を育成するユニバーサルデザインの授業づくり —特別支援教育の考えを生かして思考活動を保障する—

1月31日及び2月1日、第96回教育研究発表会を開催いたしました。教育現場で強く求められている「ユニバーサルデザインの授業づくり」の在り方を追究しようと、県内外より延べ約1700名の先生方がご参加くださいました。各授業・講演等では、授業づくりについて熱く語られました。

本年度の研究では、まず、思考に必要な要素として「意欲」「知識・技能」「コミュニケーション」「体験・経験」を掲げました。そして、そこでつまずく子どもに対し特別支援教育の考えを生かした働きかけを行うことで、その子のみならず、学習集団全体の「思考力」を育成しようと考えたのです。その授業の一端を以下に紹介いたします。

### ●●● 研究授業 ●●●

#### 3年 「けんこうっていいね 大切だね —『毎日の生活とけんこう』—

わたなべ ひろみ  
渡辺 博美

本単元では、子どもたちが自分の生活を見つめ直しながら、健康の大切さを認識し健康によい生活の仕方を理解することができるようにしたいと考えました。

本時では、基本的な生活習慣の一つである「体の清潔」について学習しました。導入では、自分たちの体がきれいなのか確かめるため、紙おしぼりで顔や腕、手などを拭きました。汚れたおしぼりを拡大して見せると、「お風呂に入っているのにどうして汚れているんだろう」という疑問が生じ、体をきれいにするにはどうすればいいのか考えていくことになりました。

まず、おしぼりについた汚れの正体を確かめるため、ふだん意識しにくい汚れや細菌を、イラストとシールを使って視覚化することとしました（視覚化UD）。透明なシールで体の表面の汚れをはがしとり、自分の汚れを見えるようにしました。次に、目に見えない、汗・ほこり・あかなどの汚れを、それぞれを強調してイラスト化し、それらを黒板上で重ね、自分たちの体の汚れを視覚的にとらえていきました。

さらに、実感を伴って理解できるように、一人一人汚れや細菌のシールを手の甲に貼り重ねていくことで、体をきれいにしておきたいという意欲が高まりました。

最後に、毎日汚れる自分たちの体をきれいにしておくために自分たちができることを考え、まとめました。「お風呂に入るときに足の先や髪、指の間まで石けんできれいにする」「外で遊び終わったらちゃんと手を洗う」など一人一人が自分の生活を振り返りながら考えることができました。



【皮膚表面の汚れをシールにはがしとり】



【汚れや細菌を黒板上で貼り重ねる】

#### 5年 家庭科 「冬の快適生活をプロデュース」

はが さやか  
芳我 清加

学習指導要領では、「衣服」と「住まい」は人間を取り巻く環境を快適に整えるものとしてとらえ、両者を関連付けた題材構成の工夫が求められています。そこで、普段何気なく行っている着方・住まい方の工夫の効果について、実証的な学習を取り入れることで実感を持った理解につなげ、よりあたたかく快適な着方・住まい方ができる実践力を育てたいと考えました。

本時では、「これまでの学習で『重ねて着たらあたたかい』と分かった。では、どんなものを重ねて着たらよりあたたかいのか」という問いに対し、子どもたち自身が考えた服（分厚い服、もこもこした服、綿や羽毛入りの服、風を通さない素材の服、手袋やネックウォーマーなど）を実際に持参しました。しかし、生活経験からそれらを身に付けるとあたたかいと分かってはいるものの、その理由はうまく説明できません。それは、空気が目に見えないために、「衣服に空気が含まれている」「肌と衣服、衣服同士の間には空気層がある」という現象に気がつきにくいことが原因だろうと考えました。そこで、衣類用圧縮袋を使って持参した分厚い服の空気を抜いてみる実験を行い、薄い服との含気量の差を比較しました（空気存在を視覚的にとらえるための働きかけ）。分厚い服からは大量の空気が抜けていき、再度開封するとふわっとなりますが、薄い服は変化がありません。次に、空気の熱伝導率の低さを実感するために、空気で膨らませた袋とぺしゃんこの袋を氷の上に置き、それぞれに手をのせて冷たさの伝わり方の違いを比較する実験を行いました。袋の中に空気層があると、氷の冷たさをほとんど感じません。これらのことから、子どもたちは衣服の厚さと含気量の関係、空気層の保温効果、断熱効果を理解することができました。

さらに、自転車に乗った経験を想起させると「風によって壊れやすい」という空気層の特徴にも気が付き、ウィンドブレーカーやネックウォーマーを身に付ける効果と結び付けて考えることができました。最後の自分に合ったあたたかい着方を考える際には、学習したことをもとにして、行動や目的などを考慮して自分なりの工夫を提案することができました。



【衣類用圧縮袋で含気量の違いを視覚化】



【空気の熱伝導率を氷と袋で実感】

## 授業における支援ツール

本校では「子どもの主体的な社会参加をめざしてⅡ～参加を高め、知識・技能を活用する力を育む授業づくり～」を研究テーマに、授業改善に取り組んでいます。授業において、活動機会や児童生徒同士のやりとり場面を増やしたり、協同した学習を取り入れたり、物的・人的な支援環境を整える工夫をしたりすることで、授業への参加が高まり、人間関係形成力が育まれるという成果が上がってきています。

中学部の数学の授業「重さを測ろう」における支援ツールの一部を紹介します。



授業風景

### 1 ICT機器による支援

授業への参加を高めるために、生徒がそれぞれ役割をもち、生徒主体で授業を進めていくようにしています。司会進行役の生徒への支援ツールとして、電子黒板を利用しました。(写真1) 授業全体のスケジュールも表示しておくことで、みんなが見通しをもって授業に臨める支援ツールにもなりました。

それぞれのグループへの課題は、携帯型情報端末にビデオで入れておき、繰り返し見ることができるようになりました。(写真2) また、必要な生徒には、手元の携帯型情報端末で作業手順の確認ができるようにしました。(写真3)



写真1



写真2



写真3

### 2 自作支援ツールによる支援

グループに出された課題「○種類のお菓子を合わせて△個、□gの詰め合わせを作る」の解決に向けて、生徒たちは、一人で、またペアで話し合いながら活動に取り組みました。

目に見えない重さを視覚的に捉えて思考を助ける、個に応じた「みつもりくん」という自作の支援ツールを活用することで、思考を深めることができました。他の学習場面でも活用できる支援ツールへと改善をしていきたいと考えています。

来年の研究発表会（H26.2.8（土））に向けて、よりよい支援環境の構築をめざして、さらに研究を進めていきます。

ぜひ、ご来校いただき、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



「みつもりくん」



「みつもりくん」での発表

## 特別支援教室「すばる」の施設について

特別支援教室「すばる」での取り組みについて、これまでいろいろとお伝えしてきましたが、『実際、すばるの施設はどんな感じなの?』というお声をよくお聞きします。そこで、今回は特別支援教室「すばる」の施設について解説したいと思います。

特別支援教室「すばる」は、旧香川大学教育学部附属坂出小・中学校分室であった2階建ての建物を活用しています。1階には個別指導室兼教育相談室、プレイルーム兼研修室等があり、主に個別指導や教育相談の場として活用されています。2階には特別支援教育コーディネーター専修生用の研修室、スタッフと内地留学生の職員室等があり、それぞれ日々の研修や指導の準備、特別支援教室「すばる」の運營業務等を行っています。



特別支援教室「すばる」全景

初めて来られる方は、場所がよく分からないという方が多いのですが、『附属中学校の西側、坂出商業のすぐ北です。』とお伝えすると、大体の方は迷わずに来られます。駐車場も完備していますが、利用者が重なる日は、満車に近い状態になります。

### ◆ 1階の様子



個別指導室兼教育相談室

玄関が建物の東西に1か所ずつあります。指導室は4部屋あり、それぞれの室内にはホワイトボードやパソコンを常設して、個別指導に活用しています。また、お子さんの状態に応じて使用する机の種類や、室内のレイアウトを変えています。壁面等の掲示物を極力少なくし、視覚的な刺激を少なくすることで、お子さんが集中して学習に取り組むことができるように配慮



プレイルーム兼研修室

個別指導終了後、お子さんが“お楽しみ”の時間として活動する部屋です。ストラックアウトやボウリングなど、体を動かして遊ぶことができます。昨年末新調したサイバーホイール(写真右)は、お子さんに大人気です。最近では、iPadのアプリで遊ぶお子さんも増えています。見学者が大勢来られる際は、この部屋でプロジェクター等を用いて、説明を行っています。

### ◆ 2階の様子



職員室兼研修室

2階の各部屋では、内地留学の先生方やコーディネーター専修の院生が、日々個別指導の教材研究や特別支援に関する研修を行っています。坂出学園の兼任スタッフの先生方も、研修室内にある専門書などを参考にしながら、個別指導の準備をされています。

## 幼稚園より

## 新春角山登山

1月8日、厳しい寒さの中、全園児と保護者が一緒に角山に登りました。「先頭の先生だけは抜かさないでね」という約束を守って、一人一人が自分のペースで坂道を一生懸命に登りました。その園児たちの真剣な姿に感激するとともに、登るスピードの早さにも驚きました。

そして、頂上に着いたときの達成感やすがすがしい気持ちを味わいながら記念撮影を行い、坂出の景色を見たり、自然に触れたりして楽しみました。

子どもたちは頂上でも走り回り、最初から最後まで元気いっぱい楽しい一日を送ることができました。青組さんにとっては最後の登山であり、子どもの成長を感じたひと時だったのではないのでしょうか。



## 園舎の耐震工事完了

2月4日、耐震工事を終えた幼稚園の新園舎に子どもたちが戻ってきました。

数日前から、「今度の月曜日は、新しくなった幼稚園にきてね」という先生方の言葉に心ときめかせていた子どもたち。明るくきれいになった園舎にみんな大興奮の様子で、さっそく園内体験に出かけていきました。

保育終了後には、お迎えに来た保護者にも園内が公開されました。

子どもたちに案内してもらって園内を見て回った保護者たちは、清潔感あふれる保育環境に大変満足した様子でした。

子どもたちが安全・快適に過ごせるようご尽力いただいた大学並びに工事関係者の皆様に、この場をお借りして御礼申し上げます。また、9月からの5ヶ月間、小学校の教職員・在校生には、大変お世話になりました。



## 小学校より

## 土曜クラブ ～ボウリング大会～

11月17日（土）100周年記念事業として、ボウリング大会を行いました。当日は、80名の親子の参加がありました。ボウリングが初めての子どもさんもいましたが、友達と一緒にということもあり、とても楽しんでボウリングができたようです。保護者の方も高スコアを狙って、大変盛り上がっていました。



## おはなしママ～ず ～10周年～



12月12日（水）、お話ランチボックスのお楽しみ会がありました。今年で10周年を迎えた保護者による読み聞かせ会「おはなしママ～ず」。「ぼくはカメレオン」、「ロボットとあおいことり」の2冊の本をピアノとフルートの演奏で合わせ読みました。お母さんたちの手作りのロボットや本に合わせた選曲に、約200名の子どもたちは、とても不思議な世界へ引き込まれていきました。

「おはなしママ～ず」は、毎週水曜の活動に加えて金曜のJohn先生による英語の読み聞かせ、天気の良い日には「青空ママ～ず」、また3年前より一年に1回ですが、給食時間に全校放送にて（月）～（金）に分けて長編を読むという活動も行っています。読み聞かせによって、少しでも子どもたちが本を好きになってくれますように、と願いが込められていることを感じました。これからも子どもたちがたくさんの本と出会っていけるように、この活動を大切にしていきたいですね。





## 中学校より.....

### 幼小中の絆の証

2月3日(日)丸亀ハーフマラソンが開催されました。小学校100周年記念Tシャツを着て参加した中学校保護者がいました。沿道では、附属小学生やPTAの方が気づき、知らない人でもハイタッチで応援していました。幼小中がつながっていると、はっきり感じる事が出来る瞬間でした。

### 夢にむかって

2月23日(土)オリンピック金メダリストの吉田沙保里選手のトークショーが丸亀市民会館で行われました。多くのPTA保護者も聴講し、その話に感銘を受けたと同時に、次回オリンピック種目から、レスリングが外されない様に祈りました。夢に向かって進んでいくことの大切さを感じた1日となりました。

### 学園教育セミナー

2月27日(水)学園教育セミナーが開催されました。藪添先生をむかえ、「子育てに役立つカウンセリング講座」を聞くことが出来ました。非常に役立つ内容で、入試を控えた3年生保護者の参加も多く、悩みが少し楽になった様です。

中学3年生はいよいよ入試本番です。すでに自己推薦や私立専願の生徒は一段落していますが、公立試験はこれから。あとは、体調管理をしっかりして、夢に向かって進んで欲しいものです。

## 特別支援学校より.....

### ふれあい祭り

11月25日(日)に「ふれあい祭り」が行われました。親和会では、うどんやおにぎり、アイスクレープ、ゲーム、バザーと、各部が担当して販売をしました。子どもたちの演技を見たり休憩をとったりしながら、保護者全員が力を合わせて行ったことで、親睦も深まったと思います。また、新たな取り組みとして、情報提供ブースを新設し、支援相談員による福祉相談も行いました。盛況とまではなりませんが、継続することで障がい者啓発・理解につながっていくと思い、今後の課題も含めて引き継いでいけたらと考えています。



<相談コーナー>

### 5P連

平成25年2月1日(金)には、「香川県特別支援学校知的教育校5校PTA・親の会連絡協議会」がさぬき市で開催され、本校から6名が参加しました。香川県手をつなぐ育成会の小西秀夫会長から、「手をつなぐ育成会の昔、今そして未来」と題する講演があり、親亡き後、他人に委ねるためには、今、何をしなければならないのかを、分かりやすくお話いただきました。「親があきらめてはいけない」とも話され、とても印象深いものとなりました。後半は分科会形式で行われ、どの分科会でも情報交換など活発に意見が出て、とても活気のある会となりました。

学長先生による出前授業

2月25日(月)香川大学 学長 長尾省吾先生による出前授業が行われました。先生の生き方から、私たちが考えなければならないことを示唆していただきました。

送別芸能祭

3月14日(木)に送別芸能祭が開催されました。今年は、1年生が「人形館」、2年生が「グッジョブ!」と題した劇でした。役者、大道具、小道具、衣装、照明、音響まで手作りの演劇に、3年生や保護者の方から惜しめない拍手が送られました。



放射線等に関する出前授業

文部科学省の簡易放射線測定器「はかるくん」を用いて身のまわりの放射線を測定し、放射線の種類と性質、暮らしや産業での利用、放射線からの身の守り方などについて学びました。



中 学 校

3学期のあゆみ

1月24日の給食の時間、各教室に附坂幼稚園の園児たちがやってきました。手に携えているのは、手紙付きの紙袋。中には、チョコとキャンディーが入っていました。これは、まもなく園舎にもどる園児が、これまで数ヶ月の間、一緒に過ごせたことに対するお礼として用意されたものでした。小学校の子どもたちもいい経験をさせてもらったことと思います。これからもいろいろな交流で、互いに学び合えるといいですね。



1月11日、3年西組では、附属中学校英語部の1年生8名による英語の読み聞かせが行われました。英語で自己紹介を行い、名前当てクイズを行ったり、チャンツをみんなで踊ったりしながら緊張をほぐし、その後、英語のお話を劇形式で見せてくれました。英語の意味が分からなくても、中学生の工夫された動きからどんな場面かが分かり、とても楽しそうでした。



小 学 校

特別支援学校

祝！卒業生を送る会

本校は、小・中・高の3学部、それぞれに卒業生がいます。そこで毎年、第一部は全校での送る会、第二部は各学部での送る会の二部構成で行っています。

【第一部】(全校での送る会)

この日は、生徒会会のデビューの日です。司会進行及び生徒会企画のゲーム大会も行いました。



毎年恒例の「やまも文集」の贈呈：卒業生の写真、在校生や先生からのお祝いの言葉、保護者からのメッセージの入った、温かい文集を卒業生に贈りました。

「卒業制作披露」：今年は「のれん」。自分たちで

デザインを考え、色画用紙で試作し、ミシンを使って布やフェルトで仕上げました。とってもステキなできあがりです。



【第二部】(各学部での送る会)



小学部！  
盛り上がった  
カラオケ大会



中学部！  
卒業生を囲んで  
記念撮影



高等部！  
面白い問題を考えた  
フルーツバスケット

幼稚園

幼稚園 リニューアル(とても素敵になったよ)

今年度の耐震工事により、幼稚園がリニューアルされました。横の道路を通るたびに「どんな園舎になるのかなあ」とみんな楽しみにしていました。2月4日立春の日、新しくなった園舎にうれしい思いで登園してきた子どもたちの表情が、「ぱっ」と笑顔になりました。明るくて温かな楽しい雰囲気とても快適になった園舎を紹介します。

保育室前のオーニングとデッキ。広いし雨が降っても安心。

保育室のトイレ、明るくて清潔で使い易くなったよ。

玄関は両開きで出入りも楽々。



新しくなった幼稚園の生活を楽しんでいる子どもたちですが、うれしい気持ちで大事に使うことや使い方を工夫することも大切になりたいと思っています。

編集後記

花の芽や蕾に、新しい年度の始まりを感じます。この1年間を振り返ってみると、研究会や教育実習、運動会や文化祭、小学校100周年や幼稚園の耐震工事など、今年も様々なことがありました。子どもたちもこの1年間で、多くの思い出ができるとともに、大きな成長もしたと思います。

卒園卒業される皆様、おめでとうございます。附属坂出学園で学んだことや育んだ友情を糧に、さらにご活躍されることをお祈りします。また、在校生の皆様も、先輩が残した伝統を引き継ぎ、ますます成長されることを期待しています。

保護者をはじめ関係の方々、今年度も温かなご支援をありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお祈りいたします。

発行年月日：2013年3月18日

発行事務局：香川大学教育学部附属坂出小学校内

佐藤 美芽 (附属幼稚園)

宮野 真也 樽本 導和 (附属坂出小学校)

寺岡 英郎 氏家 徹也 (附属坂出中学校)

伊藤 宏美 尾崎 仁美 (附属特別支援学校)